

<再評価>

事業名 (箇所名)	広域河川改修事業(飯尾川)	担当課 担当課長名	河川整備課 披田 毅	事業 主体	徳島県					
実施箇所	徳島市、名西郡石井町、吉野川市									
該当基準	事業採択後長期間(5年間)が経過した時点で継続中の事業									
事業諸元	全体計画延長L=24,100m 築堤148,350m ³ 掘削 1,136,860m ³ 護岸 85,600m ² 、水路工41,712m 管理橋1橋 落差工1基 根固工8,400m ² 床止工1基 水門1基 排水機場20 道路橋62橋 水管橋1橋 JR橋1橋 樋門3基 サイホン・堰5基									
事業期間	昭和34年度～令和15年度(西暦1959～2033年)									
総事業費 (億円)	269.6億円	残事業費(億円)	25.2億円							
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景> 過去の浸水実績 ①被災頻度：S29(台風12号)、S36(第二室戸台風)、S40(台風23,24号)、S45(台風9、10号)、S47(台風20号)、S50(台風6号)、S51(台風17号)、S62(台風19号)、H16(台風23号)、H21(台風9号)、H23(台風15号)、H26(台風11・12号) ②最大浸水戸数：床上1,359戸、床下350戸(S51年台風17号) ③最大浸水面積：3,630ha(H16年台風23号) ・当該河川の流域は流域延長約26km、流域面積71km²と広大で、徳島市・石井町・吉野川市の3市を貫流しており、勾配が緩く、河積が不足しているため、大雨の度に甚大な浸水被害が生じる。 ・これまで流下能力を高めるための河道掘削・築堤工事を県で行ってきた。同時に直轄による吉野川本川への放水路・排水機場の整備が進められてきた。</p> <p><達成すべき目標> ・過去に発生した洪水、河川規模、流域資産、事業コストや進捗速度、支川本川バランス、事業効果の早期発現等を考慮し、暫定年超過確率1/5の洪水を安全に流下させることを目標にする。 ・当面は、加減堰より上流工区においては、事業効果を早期発現するため、年超過確率1/1.1規模の暫々定河道断面にて整備し、その後、年超過確率1/5規模の断面にて整備する。</p>									
便益の主な根拠	浸水軽減戸数：3,669戸 浸水軽減面積：1,290ha									
事業全体の投資効率性	基準年度	令和5年度								
残事業の投資効率性	B:総便益(億円)	3,691.9	C:総費用(億円)	1117.1	B/C	3.3	B-C	2,575	EIRR(%)	6.2
残事業の投資効率性	B:総便益(億円)	1,699.2	C:総費用(億円)	21.2	B/C	80.2				
感度分析	残事業費(+10%~-10%)	73.6	残事業(B/C)	88.3	全体事業(B/C)	3.5	3.5			
	残工期(+10%~-10%)	78.6	82.0	3.4	3.6					
	資産(+10%~-10%)	87.8	72.8	3.8	3.2					
事業の効果等	<p>・河川整備計画目標規模の洪水に対して、浸水家屋3,669戸解消され、氾濫面積1,290haが軽減される。 また事業実施前には災害時要援護者が12,026人、最大孤立者数が1,895人、電力停止による影響人口が773人と想定されるが、事業実施によりこれらが軽減される。</p>									
社会経済情勢等の変化	<p>・地域開発の状況：石井町では特別養護老人ホームが建設され、吉野川市鴨島町の市街化区域でも開発が進んでいる。 ・地域の協力体制：市町と連携して用地買収等に取り組むなど、事業の進捗を図っている。 ・地域の事業に対する社会的評価：流域の開発が進んでいることから、事業の進捗を早め、災害に対する安全性を求める要望が強い。</p>									
事業の進捗状況	・昭和34年度より事業に着手し、令和4年度末で進捗率は91%(事業費ベース)である。									
事業の進捗の見込み	・市町と緊密に連携した情報共有や、用地買収等に関する協力体制を整えることで、事業を推進する。									
コスト縮減や代替案立案等の可能性	・設計段階では比較検討を行い、施工段階では掘削土等の有効活用することで、コスト縮減を図る。									
対応方針	継続									
対応方針理由	・度重なる浸水被害が生じている飯尾川流域の浸水対策を目的とした事業であり、現段階においても、事業の必要性及び効果性は変わっておらず引き続き事業を継続することが妥当と考える。									
その他										